

宮城県色麻町

持続可能な未来をつくる、色麻のいま。

2023.02.01

Vol.

11

February, 2023

第 11 号
隔月 1 日発行

しかま支え合い 情報誌



特集

デコボコが 一つの輪に

個性はバラバラでいい

デコボコがつながって

一つの輪っかになればいい

In
吉田

YOSHIDA



レクリエーション協会の皆さんでシトラスリボンを加美病院に寄贈しました。

参加者の姿に
自分も楽しくなる

宮城県色麻町の吉田地区で、中島まさよさん（七三）は民生委員を務めています。「月に一度の活き生き長生き教室でも、参加される方たちも、何を着ていくか悩んだり、お化粧してきたりします。かわいいですね」と目を細めます。

中島さんは民生委員ということもあり、地区の行事では中心的な役割を担っています。「活き生き長生き教室では、いろいろなかレクリエーションを考えて行きま



↑ 下高城地区のお祭でラーメン体操を披露する様子。

入念な打ち合わせ
引き出しも豊富

すが、実際の活動だけじゃなく、着ていく服に悩む時間とかが、健康にもいいんでしょうね。私も皆さんに会うと、漬物の話や野菜の種の話、干し柿や甘酒の作り方など、ためになる話がたくさん聴けるから楽しいんですよ」と話します。地区の役割も、楽しみながらできて、全然苦にはならないそうです。

中島さんは、色麻町レクリエーション協会（以下、レク協）の会長も務めています。「平成二八年に、レクリエーションの講習会に参加したんです。とても中身の濃い内容で、テキストも分厚かったんです。これをこの講習だけで終わらせてしまうのはもったいないなと思って、講習会が終わってすぐにレク協を立ち上げました」と当時を振り返ります。「レク協に注文が入

↓ レクリエーション協会で町民文化祭に参加した際の様子。



れば、他の地区にも行きます。本番の一カ月前から打ち合わせして、どう転んでもいいように、何パターンか考えていきます。他の地区に行く場合は、事前にその地区の民生委員さんなどに何をやるか聞いておいて、出し物が被らないようにしているそうです。「その日の参加者の層によっても、その場で臨機応変に対応することもあります。なので、引き出しはたくさん持っていないといけないですね」と話します。

11 住み分けられるまちづくりを



SDGs 目標 11

レク協のメンバ―は特技が様々 個性はバラバラがいい

レク協には十六人のメンバ―が所属していて、特技がそれぞれ違うそうです。その日の担当メンバ―によって出し物は変わってきます。それぞれの個性を活かす活動方針が、レク協の豊富な引き出しを支えています。「人の個性はバラバラでいいんです。人それぞれ向き不向きがあってデコボコです。そのデコボコを補い合いながらつながって、一つの輪っかになればいいと思ってます。レクリエーションって、そういうものなんじゃないかなと思います」。その楽しさを活かせるから楽

手で作られたレク協のマスクです。

最後に、今後のレク協の展望をお聞きしました。「今は、主に高齢者や障がいのある方々を対象に活動していますが、子どもを対象とした活動もしたいと思っています。外で体を使った遊びを伝えていければと思います。もちろん、楽しみながらですよ」。競争よりも共創。人とつながる大切さを感じました。

しい。それがレクの醍醐味だと話します。最後、今後のレク協の展望をお聞きしました。「今は、主に高齢者や障がいのある方々を対象に活動していますが、子どもを対象とした活動もしたいと思っています。外で体を使った遊びを伝えていければと思います。もちろん、楽しみながらですよ」。

最後に、今後のレク協の展望をお聞きしました。「今は、主に高齢者や障がいのある方々を対象に活動していますが、子どもを対象とした活動もしたいと思っています。外で体を使った遊びを伝えていければと思います。もちろん、楽しみながらですよ」。



12月に行われた生き生き長生き講座の様子。



吉田地区の生き生き長生き教室にて。七夕飾りと記念写真。

3 すべての人に健康と福祉を



SDGs 目標 3

Information

【生活支援体制整備事業とは】

あなたにとってのお宝はなんですか？

皆さんの活動・地域の活動情報をお寄せください！
生活支援コーディネーターの菅原が伺います(^-^)/

しかま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行されています。生活支援体制整備事業という名前は聞き馴染みがない方も多いかと思えます。

この事業は、介護保険制度の事業の一つです。介護保険制度というと、ヘルパー等の訪問介護や、デイサービス等の通所介護をイメージされる方が多いと思いますが、生活支援体制整備事業は生活支援・介護予防の基盤整備のための事業です。「介護予防の特効薬は社会参加である」という考えのもと、元気な高齢者はもちろん、支援や介護が必要になっても自分らしく地域の中で暮らし続けられ、社会参加ができる地域を、地域住民が主体になってつくっていくことを目的としています。

この目的を達成するためには、お住いの地域での居場所・集える場所の確保・創出が必要です。そんな場所やつながりを私たちは「お宝」と呼んでいます。支え合い情報誌は、この町にあるお宝を探して紹介していく情報誌です。皆さんにとってのお宝の情報をぜひお寄せください。

生活支援体制整備事業は、地域のお宝を応援してまいります！



色麻町社会福祉協議会
色麻町生活支援コーディネーター

すが わら かず すぎ
菅原 一 杉

※色麻町社会福祉協議会では、生活支援体制整備事業の一つ、生活支援コーディネーター事業を町より受託しています。

色麻のコミュニティ紹介

支え合いの祭典 第2回お宝発表会

令和4年11月18日(金)、色麻町生活支援体制整備事業「第2回お宝発表会」が、色麻町農村環境改善センターで開催されました。「色麻町老人クラブ連合会」「ふれあいは一と訪問協力員」「今野榮晃さん」「フロンティア21」「てるよさんのお茶っこ会」の5組に、それぞれの支え合い活動を発表していただきました。また、NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長の池田昌弘さんに基調講演をいただいた他、同法人の木村利浩さん、「Nスタみやぎ」や「歌のない歌謡曲」でお馴染みの、TBC 東北放送の増子華子さんを審査員にお迎えしました。増子さんは「皆さんの貴重な活動を知ることができて、なんだかほっこりしました。参加できてよかったです」と話していました。



発表会の様子



参加者全員で記念写真

加美農生のまごころ弁当届きました



去る12月22日(木)、ふれあいは一と訪問のお弁当配達が行われました。この日のお弁当は、加美農の生徒さん達が考案し、令和4年度高校生地産地消お弁当コンテストにて優秀賞を受賞したお弁当のレシピをもとに、JAよつば館さんに作っていただきました。食材には加美農の生徒の皆さんが育てたお米等の食材を使用。生徒さん達のアイデアとまごころがいっぱい詰まったお弁当になりました。

配達当日、一部の地域ではありますが、生徒さん達にも配達にご協力いただき、受け取った方々も嬉しそうにしておられました。

3月9・10日には、今年度最後のお弁当配達がありますので、よろしく願いいたします。

しかま支え合い情報誌 vol.11

発行：社会福祉法人色麻町社会福祉協議会

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字杉成 27-2

TEL：0229-65-2260 FAX：0229-66-1713

E-mail：shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

URL：http://www.shakyo.or.jp/hp/287/

生活支援体制整備事業は、介護保険制度の地域支援事業の一つです。
しかま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行しています。